

パネル討論「北から南から福島を踏まえた放射線教育の全国展開Ⅱ」

第51回アイソトープ・放射線研究発表会(2014 7/7-9)の催しとして当フォーラムが企画

日時： 平成26年7月9日 14:15～16:45

場所： 東京大学弥生講堂一条ホール（東京都文京区弥生1-1-1 Tel:03-5841-8205）

主催： 公益社団法人日本アイソトープ協会

内容： 昨年の第50回アイソトープ・放射線研究発表会では、全国から招聘した先生方による実践報告をもとにしたパネル討論「北から南から福島を踏まえた放射線教育の全国展開」を開催し、放射線教育の必要性、事故を境に変わったこと、学校現場での日頃の苦労などが示されるとともに、限られた時間数での授業内容の選択や実験機材などの調達の課題も示された。

今回は昨年の実績を踏まえたパネル討論の第2回目として、中学校の放射線授業内容を中心に、学校・学年毎にどのような内容を実施することが有効か、プログラム提言を目的として、改定された文科省副読本についての解説及び東北、関東、中部、近畿での授業実践事例の発表を関係者からいただき、会場参加者と討論する。

パネル討論のプログラム:

パネリストによる話題提供

1. 講演 清原 洋一 先生 文部科学省初等中等教育局 主任視学官
「放射線教育の副読本の改定について」
2. 実践事例1 西田 敬子 先生 奈良県奈良市立興東(こうとう)中学校
「やってみよう 放射線教育」
3. 実践事例2 佐野 嘉昭 先生 愛知県名古屋市立上社(かみやしろ)中学校
「名古屋市の中学校における放射線教育」
4. 実践事例3 鈴木 克己 先生 茨城県東海村立照沼小学校
「東海村における放射線・原子力に関する学習について」
5. 実践事例4 吉田 良平 先生、荒木 郁未 先生 福島県飯舘村立中学校
「飯舘村における中学校の放射線授業の実践」

パネリスト及び会場からの発言者を交えてのパネル討論

コーディネータ：高島 勇二 先生 (エネルギー・環境理科教育推進研究所副代表理事)

座長：宮川 俊晴 (放射線教育フォーラム/日本原燃(株))

パネル討論への参加について：

第51回アイソトープ・放射線研究発表会(7月7～9日)の一般講演の聴講には2000円の参加費が必要ですが、このパネル討論は一般公開ですので、このパネル討論だけに参加する場合は無料です(参加申し込み不要)。ただし、会場受付で記帳をお願いしています。

会場案内など、このパネル討論を含めた第51回アイソトープ・放射線研究発表会の詳細は日本アイソトープ協会HPの開催案内 <http://www.jrias.or.jp/seminar/cat4/505.html> をご覧ください。

なお、当日はパネル討論が始まるまでの午前、午後に放射線教育に関する一般講演が一条ホール近傍のセイホクギャラリーで予定されています。